

明治九年圖書寮交付

近藤圭造 編

八月八日
伊藤博文 日
ヲ廢シ、法制局ヲ置キ、參議
ナス。○二日、二品親王有栖

川熾仁、特命全權公使正四位柳原前光、辨理公使正
五位佐野常民、教部少輔正五位黑田清綱、從四位齊
藤利光、式部寮五等出仕從四位大給恒正四位壬生
基修、從四位秋月種樹、議官ニ任ズ。○大阪造幣寮ニ
ニテ、歲刻ノ貨幣條例ヲ、各地書肆ニ廣ク發賣セシ
ム。○四日、内務省中ニ第七局ヲ設ケ、衛生事務ヲ掌

リ、第三局准刻事務ヲ管ス、尋テ第七局ヲ廢シ、第三局中ノ事務ヲ分チ、准刻局、衛生局ヲ置ク。○五日、元老院開院式ヲ行フ、天皇臨御、勅諭シテ曰ク、朕茲ニ親臨、始テ本院ヲ開キ、爾衆議官ニ詔グ、曩ニ衆庶ニ告ルニ、元老院ヲ設ケ、立法ノ源ヲ廣ムルノ旨ヲ以テシ、乃チ爾衆議官ヲ以テ、立法ノ官タラシム、尚クハ爾等各心カヲ一ニシ、其職任ヲ盡シ、允ニ上下ノ康福ヲ圖ラバ、實ニ國家無疆ノ休ナリ、欽テ斯意ヲ體セヨ、尋テ同院ニ建白書疏ハ、渾テ普通文ヲ用キ、恭敬ヲ主トシ、言若シ、天皇及ビ皇廟皇子親王等ニ涉ル時ハ、殊ニ不敬ノ語アルミカラズ、且政府ヲ朝

識スベカラザル條例ヲ、其門側ニ揭示ス。○七日、天皇及ビ皇太后皇后兩宮、山下博覽場ニ臨幸、澳國ノ物産器物、玉石金鐵、其他製造測量ノ具、或ハ同國政府ノ獻品若干、及ビ傳習工業器械等ヲ、盡ク天覽畢、テ其技術精藝ヲ試檢セシメ、實用著明ノ功驗ヲ深ク感賞セララル。○官報公告ヲ除クノ外、政務一切ノ事ヲ、新聞紙ニ論叙スルヲ禁ス。○先是、八代洲岸ニ丁目ニ東京裁判所ヲ建築ス、是月十日開廳シテ茲ニ轉徙ス。○十日、陸運會社解社ノ後、依然ト旧社名ヲ存スルモノアリ、開業ノ者ニ社名變更ノ令ヲ下ス。○篤行及ヒ奇特ノ者、賞與ノ等級ヲ定ム。○十二

日三品親王久通朝彦、神宮祭主ニ任ス。○縣治條例中ニ掲載スル、窮民救助ノ規則ヲ改メ、之ヲ頒布ス。○十四日、大審院ノ順次ヲ開拓使ノ上ニ置ク。○士族以下家祿賞典祿奉還ノ出願ヲ止ム。○東京府違式註違條例、夜中無提灯ノ條末項、陸海軍諸兵非常警戒、或ハ平日隊伍ヲ組、夜陰行進、及ビ定制ノ服帽ヲ着スル時ハ、單騎ト雖モ、此限ニ非ラズト改メ、之ヲ布達ス。○十八日、北海道石狩國札幌郡ニ、篠路驛ヲ置キ、其里程ヲ定ム。○二十二日、福羽美靜教官ニ任ジ、一等待講ヲ兼。○巡查邏卒死傷ノ遺族扶助規則ノ條、父母妻子等遺留セバ、其家族ニ給與スト改

正ス。○高知縣下東西岬近海ニ於テ、珊瑚珠ヲ發見シ、採揚セントス、固ヨリ坑物ニ關セガルヲ以テ、其縣廳ヲシテ許可ヲ下サシム。○二十五日、締盟各國君主ノ稱呼、原語ニ關セズ、日本ノ官文書ニハ、總テ皇帝ト稱シ、米佛其他共和國ハ、大統領ノ字ヲ稱スベキ定式トナス。○二十八日、國郡村市ノ保護便益ノ為メ、院省使廳府縣ニ於テ、人民所有ノ土地買入規則ヲ定メ、一般ニ布告ス。○二十九日、巡回裁判ノ各地方ニ至ル、一年兩度ヲ定規トス、罪獄繁劇ノ地方ハ適宜ヲ以テ、三四度ニ及フトモ、苦シカフズト定ム。

歐洲近況 ○澳西多利國太上皇ハ、フランス一世ノ長子ニテ、今年崩ズ、年八十三前帝甚ダ慈仁ノ心無キト雖モ、帝性温厚至孝善ク父帝ノ心ニ順ヒ、苛惡ヲ為スニ至ラシメズ、即位ノ後、國權政体ヲ復シ、深ク人民ニ愛戴セララル、故ニ在世ノ日屢強敵ヲ受ケ、挫折スト雖モ、未ダ曾テ舊境ヲ損セズ、稱シテ仁惠帝ノ異名ヲ得タリト云フ、

魯國 ○我日本ヨリ、既ニ讓渡シタル樺太島ノ南部ヲ受取ルヲ、政府ト決議セシ為メ、近日公使我が東京ニ來着セントス、而シテ此公使ハ軍艦ニ乘シ、新領地ノ樺太ニ進向シ、自國ノ罪人ヲ送り、殖民ト

為シ、此島ノ石炭ヲ掘ラシメ、各其業ニ就クヲ要トス、

八月一日、筑前國鳥帽子島ニ、不動白色ノ燈明臺ヲ建築ス、○五日、度量衡三器發行規則ヲ定メ、一様ニ施行シ、従前ノ弊害ヲ除カン為メ、各府縣下ニ製作場賣捌所ヲ設ク、○函館在留英人、ヲラキストノ商社ニ於テ、我政府許可ナキ、國內通用ノ証券ヲ製造ス、因テ領事官ニ命ジ、既ニ發行ノ証券ヲ一切ニ制停セシム、○十二日、福島上等裁判所ヲ宮城ニ移シ、尋テ開廳ス、○正院中ニ儀則課ヲ置ク、○官國幣社祭式、本年四月既ニ頒布ス、因テ府縣社以下、之ニ準

據シ、各社適宜ニ祭典ヲ行ハシム。○十四日、金銀貸借ノ抵當物ハ、賣買スベキ物件ニ限ル、人身ヲ以テ書入抵當トナスハ、之ヲ允サズ。○十六日、豊前國藍ノ島北西ニ、一箇ノ浮標ヲ設ク。○十七日、清國天津ニ領事官ヲ置ク。○二十日、日向國宮崎郡下北方村鎮坐神社ヲ、國幣社ニ列シ、勅祭トナス。○二十二日、凡ソ、民有地ニ非ザル、池澤溝渠等ハ、官有地ニ編入ス、耕地ニ屬スル養水溜池等ハ、其地民ノ所有トナシ、借地ノ賦課ヲ免ス、若シ地内ニ生殖スル水草魚鱉ヲ獲テ、利益トナス者ハ、借地稅ヲ收入セシム。○二十四日、海軍退隱令ヲ定メ、武官或ハ官吏退隱ノ

際、賑恤支給ノ方法ヲ設ク。○二十八日、府縣市街地價百分一ノ收稅ヲ改メ、地租凡則ニ依リ、百分三ノ稅トナス。○三十日、酒田縣廳ヲ羽前國田川郡鶴岡ニ移シ、鶴岡縣ト改稱ス。○内務省勸業寮ニ於テ、外國人ヲ雇ヒ、牧羊場ヲ開キ、蕃殖ノ方法ヲ設ク、事業志願ノ者ハ、試檢入場ヲ許可ス。○先是、白露國ノ奴隸賣買マリアル、ツ船、我神奈川駐留ノ際、我政府官吏處分ノ事件ヨリ、白露國ト爭論ヲ生ズ、乃チ兩政府ヨリ、魯國帝アレキサントル第二世ニ審斷ヲ委托ス、是ニ於テ、魯帝親裁シテ曰ク、日本政府ハ、自國ノ法律定例ヲ用キ、實義ノ處分ヲ行ヒタルニ

テ、白露政府及ビ國民ニ對シ、信義ヲ缺キ、或ハ妨害
ヲ與フルノ意ナシ、固ヨリ偶然ノ事ヨリ起リタル
爭論ナレバ、往往日本政府ト未ダ締盟セザル國斯
ノ如キ舉アラント、ヲ避ンガタメ、能ク交際ノ條則
ハ、明瞭ニ確定セズンバ有ベカラズト、則チ裁判狀
ヲ以テ、我政府ノ處分、理アリトナス、
支那近況○當今支那政府ハ、獨ビ國ヨリ多ク兵器
ヲ購求セリ、蓋英國銀行ヨリ、多ク負債セシハ、此事
件ノ為メナルベシ、

魯國○凡ソ六七十里ノ小鐵道線ヲ、開敷スル免許
ヲ、政府ヨリ與フ、此鐵道ハ、魯國內地ノ通運利益ノ

目途ヲ以テ、ウオルガ、トウーラルノ兩地ヲ拘聯シ、
米穀盛殖ナル、原野ノ往復ヲ開クノミナラズ、北海
裏海黑海ヲ聯屬スル、為メニ、地歩ヲ占ムルナルベ
シ、

西班牙○王國ノ政體案ヲ編集セシムガ為メニ、九頁
ヲ撰舉シ、之ニ專任セシム、乃チ議案第一條ハ、宗教
ノ自由ヲ記ス、立法ノ權ハ、他ノ統一政治ニ於ケル
如シ、元老院及ビ民會ヨリ成立シ、而シテ審判ノ權
ハ變易セズ、

英國○本月中議事院閉院ノ日、女王ノ詔ニ、今度ザ
シナバル
亞非利加國名
國王ノ英國ニ來リシハ、亞非利

加東方ニ於テ、賣奴ノ商業ヲ禁遏スルヲ得セシムベキヲ期トス、

九月三日、先キニ文部省布達ノ、出版條例ヲ廢シ、更ニ條例ヲ定ム、自今刻版出願ノ者、三十年間專賣ノ免狀ヲ與フ、是ヲ板權トナス、○五日、名東縣分割香川縣再立、讚岐全國ヲ管轄ス、○改正律列第百九十一條ヲ刪ル、○正院中印書局ヲ大藏省ニ屬ス、○陸前國仙臺、豐前國小倉ニ、出納寮出張所ヲ置ク、○七日、廢寺合寺跡地建物處分ノ規則ヲ定ム、○各地方廳ニテ、建設ノ傳習所、女工教場、及ビ病院、貧院等ハ、之ヲ官有地ニ編入セシム、○大審院章程第九條

ハ、上告ヲ受タル上、之ヲ破毀シ、法律ノ疑條ヲ辨明シテ、他ノ裁判所ニ示ストナル、依テ法律ノ條件了解シ難キ者ハ、之ヲ司法省ニ聽問セシム、○東京府達シテ云フ、劇場ハ勸善懲惡ヲ主トシ、風俗ノ一助タルヲ以テ、府下各地ニ建設ヲ允可ス、頃日其演スル所作、多ク淫風猥褻ノ醜態ヲ現シ、或ハ前古ノ事蹟ニ作意ヲ加ヘ、牽強附會ニ涉ルヲ禁ズ、○八日、租稅賦金ノ名ヲ令ツ、全國一般賦課シ、大藏省ニ收入シ、國費ニ供スルヲ國稅トナシ、諸稅及ビ地方ノ費用ニ供スル者ヲ、府縣稅ト定ム、○府下第一、二、三大區、四小區、巴町、第三、四大區、四小區、富士見町、六町

日第五大區二長町ニ、東京裁判所支廳ヲ設ク、○華士族平民家祿賞典祿、自今米額ノ稱呼ヲ廢シ、各地方貢納定價、凡三年間ヲ平準シ、金祿トナシ、支給スル方法ヲ頒布ス、○十二日、小學扶助委託金、文部省ヨリ之ヲ配付ス、○各廳事務ニ係ル上申往復ノ公文ヲ、新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス、○十三日、津田仙ヲ赤坂離宮ニ召シ、御田ノ稻ニ媒助法ヲ施シシム、天皇及ビ皇后宮之ヲ覽シ、其傳習ノ精巧ヲ感賞セラレ、賜フニ酒椀ヲ以テス、○十四日、工部省四等出仕大島之介ヲ、信越羽州ノ地ニ遣ハシ、石腦油其他物産ヲ調査セシム、○十五日、白耳義國公使參朝、天

皇ニ謁見ス、○蒸氣東京丸以下十四艘ノ官船ヲ、三菱郵便漁船會社ヘ下ケ渡シ、及ビ航海術習學ノ費トシテ、歲々金若干ヲ給與ス、是ヲ以テ政府航海運漕ノ業開ケ、逐次盛大ニ至ル基礎ヲ開クトス、○官國幣社、及ビ府縣鄉社等、古制ヲ變換セバ、後來其照鑒ヲ失フニ至ル、因テ本社并ニ附属建物、周圍玉垣等、再造ノ際ハ、渾テ舊制ニ依遵シ、修營スベキ旨ヲ頒布ス、○府縣長官并ニ主任ノ者、公用ノ印章ヲ改ム、次官モ亦之ニ準シ、府縣官等出仕苗字ヲ一樣ニ彫鑄シ、公務上ニハ改正印章ヲ採用シ、私印ヲ用キシメズ、○濱松縣下ニ電信分局ヲ設ケ、通信ヲ試ム、

○十八日、各社所藏ノ古文書寶物什器中ニ現存スル、緣起古文書謄本影本等ヲシテ、教部省へ出サシム、○病院設立醫藥開業等ハ、衛生ノ事業ニテ、内務省ニ屬シ、醫學校創建ハ文部省ニ屬シテ、各所轄ヲ異ニス、元來文部省ノ一管理タルヲ以テ、府縣申牒ノ際、其區域ヲ辨明シ、混同スベカラザル旨ヲ布達ス、○二十日、地理寮中ノ地誌課ヲ、正院修史局ニ合併ス、○二十二日、法制修史ニ課ヲ存シ、内外史本課并ニ諸課局ヲ廢ス、内外史ヲ改メ、大史權大史少史權少史ノ官ヲ設ク、○北海道膽振國虻田郡内ノ虻田驛ヲ廢ス、○相模國城島燈明臺、従前白色ナルヲ、

本年十一月十五日ヨリ、綠色ニ變換ス、○警察官吏犯罪人ヲ捕獲シ、府縣裁判所へ遞送ノ際、其姓名ノ上ニ捕縛シタル月日、并ニ捕獲ノ區別ヲ記載セシム、○二十四日、陸軍武官表ヲ改正ス、○二十八日、内務省中ニ圖書寮ヲ置ク、○三十日、諸建物書入質、并ニ賣買讓渡ノ規則ヲ定メ、十二月一日ヨリ施行セシム、○先是華族會館ヲ設ク、同族一般朝旨ヲ奉戴シ、盡力協議スレドモ、素ヨリ私立ノ結社ナル故ニ、和同一致セズ、願クハ政府ノ力ヲ假リ、盛隆ニ振起シ、永ク上下ニ對スル義務ヲ盡シ、講明セント欲ス、又三大臣ノ如キモ、之ニ臨席董督アラバ、一層提擡

ニ至ラント、議官壬生基脩、秋月種樹等上申ス、三大臣之ニ答ルニ、會館勅立ノ後、未ダ規則改撰ヲ果サズ、其改革施設ノ法ノ如キ之ヲ、柳原議官ニ委付セシメバ、成功アルベク、我輩モ亦共ニ協力翼賛シ、會議ノ彌盛隆ニ至ルヲ、冀望スル意ヲ以テス、○先是、朝鮮海路研究トシテ、我雲揚艦ハ、品海ヲ發シ、對馬國ヨリ、直チニ韓海ニ赴キ、釜山灣ニ投錨ス、又咸鏡道永興府ヨリ、慶尚道ノ内ウニコウツキ灣ニ向ヒ、茲ニ投錨シ、六月二十八日、同艦ノ士官三名上陸ス、彼國亞官誇言禮ヲ失フノ舉アリ、乃チ艦長協議ノ末、土主官ニ應接シ、先ツ亞官ノ罪ヲ糾問シテ曰ク、

先キニ我が軍艦ノ入灣スルヤ、尋テ士官ヲ上陸セシム、足下數多ノ兵ヲ率キ、次官ニ謂ハシメテ曰ク、何國何道ノ人ニシテ、何故ニ此處ニ來泊スルヤト、足下ハ慶州道ノ土主官ニシテ、隣國ナル我が旗章ヲ知ラザルハ何ゾヤ、○又曰ク、艦内ニ備フル所ノ武器ハ、何ノ為メナルヤト、足下ハ武器ノ何ノ為メタルヲ知ラスシテ、數多ノ兵ニ將タルハ何ゾヤ、○又軍幕ヲ張リ、士官ノ上陸ヲ拒ム、是大ニ信ヲ失ヘリ、我が國ハ貴國ト交誼ヲナシ、親ヲ求メントス、足下反テ之ヲ疎ニシ、剽エ物品ヲ撿シタル上ニテ、薪水ヲ贈ラント、僭踰ノ言ヲ發スルハ何ゾヤ、○又曰

ク、汝日本人ニシテ、衣服ト艦體ノ異ナルヲ怪ムト、
足下ハ先キニ我が服制改革ノ事モ、貴國政府ニ報
知セシヲ知ラザルハ、何ゾヤ、夫レ我大日本天正文
祿ノ昔ニアラズ時世ノ變遷ニ隨ヒ、風俗モ亦一變
セザルヲ得ズ、是我が皇帝、非常ノ卓見ヲ以テ、五洲
ノ形勢ニ着眼シ、百度改革、維新ノ今日ニ至ル、艦ヲ
堅牢ニシ、砲ヲ精巧ニス、其他事々物々ヲ研究シ、天
性ノ智識ヲ廣メントス、獨リ我國ノミニアラズ、世
界萬國同一ニシテ、互ニ相競フ、此時ニ奮リ、漠然ト
シテ四海ノ開明ヲ知ラズンバ、天是ヲ何トカ云ン、
人ノ人タル義務ヲ賦フト言ハザルヲ得ズ、足下夫

レ之ヲ諒察セヨ、○又曰ク、汝ガ用ユル處ノ紙ト錢
ハ、是我が國ノ物ナリト、夫レ紙ハ我が國産、錢ハ我
ガ公館ニ於テ、需用ノ物ナラズヤ、足下妄リニ疑念
ヲ抱キ、竊盜ヲ糾問スルニ等キ、過言ヲ發スルハ何
ゾヤ、○然ルニ、我が士官ハ、先キニ足下ト、無用ノ論
辨ニ時間ヲ空シク費スヲ厭ヒ、例ニ因テ、問情スト
アレバ、再會ヲ約シ、歸艦セシニ、暫クシテ、數艘ノ兵
船ヲ率キ、三名ノ官負、我が船門ニ來リ、問情ノ為メ
ナルヲ告グ、我が艦長入艦ヲ許シ、長官ノ代理タル
者、到底長官ト見做シ、適應ノ禮ヲ以テ、之ヲ接スル
ニ、彼ノ三名ハ、船門ヨリ入タルマ、肯テ揖禮スル

者ナク、唯大碗ヲ見、或ハ雙眼鏡ヲ以テ遠眺シ、其携
 ル所ノ手旗ハ、各襟ニ挿ミ、甲板上ニ安坐ヲ占ルノ
 ミ、是ニ於テ、先ツ彼三名ノ官位姓名ヲ尋問セシニ
 官位通訓大夫迎日縣監察兼慶州鎮管兵馬節制都
 尉姓金氏諱字命求ト筆記シタリ、然レモ彼三名ノ
 品行ヲ看ルニ、一名トシテ斯ル高官ヲ辱クスル者
 ニアラズト伺察シ、再ビ問フニ、彼レノ手旗ヲ襟ニ
 挿ミタルハ、亞官ナリト答フ、我ヨリ尋情ノ如何ヲ
 問フニ、亞官曰ク、朝鮮ト日本トハ隣國ノ交ナリニ
 何ノ縁ナク、此處ニ來泊スルヤ、又曰ク、乗組人負何
 名ニシテ、備フル所ノ物品ヲ檢セント、然ルニ應接

未ダ央ナラズシテ、問情別砲將手旗ヲ襟ニ差タル
 一名、屢々飲酒ノ狀ヲ為シ、筆ヲ取り、酒壺ノ好品ア
 ラバ、ニツ賜ハレト記ス、我が艦長士官ハ其為体ヲ
 見テ、大ニ驚愕シ、忽チ心ニ快ラズシテ、面會ヲ絶チ
 タリ、○此亞官曰フ所、朝鮮ト日本ト云々、是太ニ反
 對セリ、素ヨリ隣交ノ國ナルニ、縁ナシトハ何ゾヤ、
 ○又曰ク、乗組人負云々、是取テ示サミルニアラズ
 ト雖モ、物品ヲ檢セントスルハ、何ゾヤ、足下ハ誇言
 ヲ發シ、兵威ヲ逞シ、以テ脅逼セントシテ、數艘ノ兵
 船ヲ率キタル亞官ヲ遣スト雖モ、事實曖昧、更ニ結
 局ナキノミナラズ、酒壺ヲ請フ談ニ至リテハ、其形

狀、真ニ痴兒狂夫ノ如シ、何ゾ斯ク已ヲ尊大ニ構ヘ、
 他ヲ睥睨スルノ甚シキヤ、足下ガ遣ハス所ノ問情
 使ナレバ、事皆足下ノ意中ヨリ出シト、看做サマル
 ヲ得ズ、果シテ然ラバ、何ゾ黙セン、我が國辱ノ六十
 ル、最モ輕事ニアラズ、然リト雖モ、到底亞官ノ粗暴
 ヲリ出テ、意外ノ事ト云ハバ、詳カニ之ヲ辨解シ、我
 ガ問フ所ニ應ゼントヲ、茲ニ企望ス、是則テ兩國間
 ニ於テ、大ニ交誼ニ關スル一部分ナレバ、宜シク注
 意シ、事實苟且ニ涉ラズ、懇々互ニ論及シ、隔意ヲ解
 キ、永ク交誼ヲ全ウセン事ヲ要ス、足下夫レ熟思セ
 ヲト、盡ク失言ノ條件ヲ救舉シテ、責問スルニ因リ、

土主官モ理ニ服シ、鮮塞リ答ル能ハズ、遂ニ亞官ヲ
 呼出シ、阿責シテ罰ニ處スト云フ、尋テ同艦ハ韓海
 ヲ發シ、長崎港ニ歸着シ、九月十二日、同港ヲ再發シ、
 五島ニ碇泊シ、韓海ヲ經濟州ノ傍ヲ過ギ、東南海岸
 ヲ回リ、又西海岸ヨリ、支那牛莊邊ニ向ヒ赴カント
 ス、同月十九日、京城ノ河口ナル江華島ノ傍ヲ過ギ、
 地方三里許ノ沖ニ投錨ス、乃チ先ヅ小船二艘ヲ卸
 シ、其港ノ淺深ヲ測リ、第三ノ臺場ニ至ル頃、忽チ我
 小船ニ向ヒ、彼ヨリ發砲ニ及ブ、我が船士上陸シテ、
 其事由ヲ尋問セント欲スレド、彼レノ發砲甚ダ烈
 シキヲ以テ、不得已、我が小船ヨリモ之ニ答發シ、暫

ク時ヲ移シ、戦ヒタレドモ、彈丸一モ中ルヲ得ズ、既ニシテ大雨降ルヲ以テ、小船ハ本艦ニ漕ギ寄ラントスルニ、臺場ヨリ大砲連發止マズ、翌二十日、我が兵ハ本艦ヲ以テ、近ク進メントスレド、灣淺クシテ入ル能ハズ、因テ遙カニ沖中ヨリ、臺場ニ向ヒ發砲スルニ、破裂彈ニ丸恰モ其岩中ニ入タレバ、必ズ殺傷アルベシト思ヘドモ、未ダ其實ヲ詳カニセズ、依テ二里許東南ニ引卻キ、茲ニ艦ヲ止メ、其西北島ノ永宗城ヲ襲撃セント、警備ヲナシ、二十一日未明、又小船二艘ヲ卸シ、士官海兵及ビ水夫等二十二入ヲ乗載シ、即チ城ノ東門下ニ漕付ケ、直チニ上陸セリ、

然ルニ韓兵城上ヨリ頻リニ發箭シ、水夫二名、是ガ為メニ射斃サル、士官聊屈セズ、真先キニ進ミ出テ、塙ヲ起下シ、城内ニ入り、東門ヲ排キ、屢々進撃ノ喇叭ヲ吹キケレバ、海兵水夫相踵キ、一度ニ驅入り、小銃ヲ連發シ、又南門ニ向ヒ、火ヲ人家ニ放ツ、煙焰忽チ起ル、時ニ本艦ヨリ大砲ヲ城内ニ發ス、韓兵之ヲ見テ、大軍亂入セリト恐怖シ、悉ク西門ノ一方ヲ解キ、逃出口トス、門外ノ萬世橋、我が海兵六人ニテ、既ニ之ヲ断ツ、韓兵一人モ通ズルヲ能ハズ、是ニ至リ、殆ト遁路ヲ失ヒ、狼狽殊ニ甚シ、韓兵ハ乃チ西南ノ斷岸ヲ下リ、松山島ニ遁レ入ントシ、衣ヲ脱キ、海中

ニ飛入リタリ、然ルニ海潮大ニ漲リ、洄キ玄ルヲ得
ズ、暫ク逡巡ノ間、我兵狙撃シテ二十四人ヲ殺ス、其
他海中ニ溺死スル者亦既ニ多シ、樹陰或ハ他所ニ
伏匿スル、韓兵十二人ヲ索出シ、速クニ捕執シ、遂ニ
臺場ヲ打圍ミ、兵器ヲ奪取スルニ至ル、是ニ於テ、艦
内ノ衆心、始テ安堵シ、二十三日、同艦江華灣ヲ發シ、
二十九日、長崎ニ着港シ、直チニ其顛末ヲ電信ニテ、
政府へ報知セリ、

支那近況 ○支那政府ニ向テ、英國公使ウエード氏
ガ、雲南暴殺事件ノ結局如此ヲ要スト、

第一 リンタイヲ罰スベシ、

第二 雲南撫臺ヲ免職スベシ、

第三 開港場ヨリ、直線十里支那以内ニ於テハ、
定規ノ輸入品ノ外ハ、外國商品ニ海關稅

ヲ課セザル可シ、

第四 英國官人ヲシテ、六部ノ官省ニ應接スル

ヲ得セシムベシ、

第五 英京ニ於テ、支那公使館ヲ立ツ可シ、

第六 雲南ニ於テ、通商ヲ開キ、并ニ鐵道ヲ建ル

ヲノ許可ヲ與フ可シ、

歐洲近況 英國 ○西班牙國ト協議シ、シブテラルタル
ノ間ニ隧道ヲ鑿開シ、歐亞弗ノ三大洲ヲ連接セン

ト已ニ初驗ヲ成セリ、其隧道ノ位置ハ、カリヤ及ビ
 アルゼリヤスト、一方ハセントルトルタンゼルノ間
 ヲ一直線ニ串貫スト、其長サ四萬四千三十九尺、
 魯國〇魯國ニ於テ、裏海ヨリテヘラニ百兒社ノ首府マデ、
 一線ヲ引クベキ免許ヲ百兒社政府ヨリ受得タリ、
 同國政府ハ、百兒社國境ノ二所ニ連スルニ線ノ鑿
 道ヲ敷クトヲ決議シタリト、
 佛國〇七八月ノ洪水ニ因リ、佛國溺死ノ者ヲ救ハ
 シガ為メ、羅馬法王ヨリ、二万フランクノ金額ヲ送
 致ス、瑞西國又許多ノ金額ヲ國中ニ募リ、之ニ贈遺
 ス、

此月文部省ヨリ、獨逸棄兒院論ヲ廣告ス、昔時ハ棄
 兒ヲ耶穌教會ニ於テ養育セシガ、六百年世トリア
 ルライオン地ニ棄兒院ノ如キ者ヲ設立セシヨリ後
 七百八十七年ニ至リ、マイラントニ於テ始テ棄兒
 院ヲ建設ス、以後巴理ニハ一千三百六十二年、ウエ
 ー子ヅヒニハ一千三百八十年、倫敦ニハ一千六百
 八十七年、悉ク棄兒院ヲ建設セリ、既ニ歐洲各國ニ、
 漸次設立アリシヨリ、獨リ獨逸ノ各國ハ、日ニ減少
 シ、殊ニプロテスタント宗ノ諸州ハ、既ニ衰微ヲ兆
 ス、又羅馬人種ノ各國、及ビ魯國ニ於テハ、其數逐次
 ニ増加ス、蓋人民風俗薄惡、婚嫁交際正シカラズ、或

ハ土地貧瘠ナル地方ハ野合ノ私子極メテ多キニ由ル佛國ノ如キ、一千八百十年ニハ棄児ノ貧五万五千七百人ナリシガ、一千八百十八年ニ至リ既ニ増加シテ九萬七千九百人ニ及ビ、一千八百三十三年ハ八十三萬三千人ノ多キニ及フト、是他ナシ佛國棄児場ヲ設ケ外見ヲ避ケシムルニ因レリ、近年此場ヲ取毀チタル地ハ、還歲月ヲ逐テ棄児ノ數減耗セリ、要スルニ棄児ノ入院スルヤ、後來其教育セラレタル功績ヲ現ハスモノニ非ズト決定スベシ、況ンヤ急情淫蕩ニ流レ終ニハ罪ヲ犯スモノ多キ才ヤ、然レ氏棄児ヲ教育スルモ、亦政府ノ公務ニ屬

スルヲ以テ、之ヲ府外田舎ノ家族ニ附托シ、棄児院設置ナキヲ以テ、善良ノ策トス、

十月二日、寺院境外ニ屬スル僧侶、及ヒ舊修驗者居屋敷地、從來自費建營居住ニ限り、低價ヲ以テ、本人へ拂下ケシムベキ旨ヲ布達ス、○四日、本年七月ヨリ、九年六月ニ至ル、警察費ヲ定メ、從前定額金、其他警察ニ關スル諸費ヲ、總テ廢ス、○遷卒宿代官費ヲ以テ支給スルヲ廢シ、自今警察費ニ充ル民費、又ハ府縣稅ノ内ヲ以テ、之ニ支給ス、○烟草課稅ノ條則、并ニ製造印稅等ヲ定メ、明年一月ヨリ、一般ニ施行セシム、○五日、正權大舍人ヲ廢シ、更ニ官等ヲ改メ、

大舎人二十名ヲ置ク。○一週歳ノ費額ハ、歳入豫算ニ基キ各廳分賦ノ方法ヲ定メ、増費ニ至ラザルヲ要トス。○内務大丞河瀬秀治ヲ以テ、米國博覽會事務局長官トナス。○七日、天皇永田町華族會館ニ臨幸、衆華族ニ勅諭シテ曰ク、朕茲ニ親臨シ、汝衆華族ニ宣示ス、朕曩ニ汝衆ニ諭スル所アリ、汝衆能ク朕ガ旨ヲ体シ、昨年中同志ヲ會合シテ、斯館ヲ創立シ、以テ國家ニ報効スル所アラントス、朕甚ダ之ヲ嘉ニス、汝衆華族一般爾後此館ニ從事シ、協同勉勵、學術ヲ研精シ、其日途ヲ宏遠ニ期シ、爾ノ履行ヲ端クシ、家道ヲ齊ヘ、能ク名聲ヲ保チ、永ク皇室ニ盡ス所

アレト、又三大臣ヘ別勅シテ曰ク、汝等職務ノ傍ラ、宜シク朕ガ意ヲ体シ、華族一般ヲシテ途ニ就カシムレトヲ圖レト、乃チ議事ヲ開キ、天覽ニ供シ、尾崎三郎英國議院ノ濫觴ヲ進講ス。○此日ヨリ筑波号軍艦ヲ以テ、大砲彈射ヲ品川津ニ試験ス。○九日、家督相續或ハ贈遺等ニ由テ、地所讓受ノ際、地券書換ノ方法ヲ定メ、之ヲ頒布ス。○裁判支廳、勸解ハ其爭論ノ顛末ヲ、本人ヨリ直チニ聞クニアラザレバ、事情ヲ盡シ難シ、若シ本人疾病事故ノ時ハ、其親戚ヲ代人トスベキ旨ヲ布達ス。○十日、紀元節、天長節、新年宴會酒饌料賜方ノ順序ヲ定メ、勅奏判任官ヲ三等

トナス、各差アリ、準官以下ハ賜フヲナシ、○十二日、
 各社祭神考、縁起書、神徳記等ノ如キ圖書ニ限り、一
 應教部省ヲ檢閲ヲ經過シ、板刻スベキ旨ヲ布達ス、
 ○十三日各廳金銀改方、銀行又ハ為替方ニテ改濟
 ノ内、萬一贖金或ハ不足アル時ハ、之ヲ償ヒ、別ニ其
 金高丈ヲ取收ル成規ヲ改メ、自今贖金ノミ之ヲ償
 却シ、不足金ハ従前ノ如シト更ニ頒布ス、○十五日、
 天皇米國人ウキリヤムス氏ニ謁見ヲ賜フ、乃チ勅
 シテ曰ク、明治四年十月、速ク汝ヲ聘シ、我大藏ノ願
 問ニ任ジ、專ラ収税理財ノ事務ヲ補理セシムルヲ、
 茲ニ數年、汝黽勉ノ力ニ憑テ、其裨益スル尠シトセ

ス、中ニ就テ、曩ニ我政府公債ヲ海外ニ募ルノ日、汝
 又我理事官ト俱ニ歐米兩州ニ航シ、之ヲ扶掖整完
 スル、其功勞多キニ居ル、朕殊ニ之ヲ嘉尚ス、今汝約
 了リ、期滿テ國ニ歸ルヲ告ク、朕乃チ汝ガ航海恙ナ
 ク、并テ將來永ク幸福ヲ保有センヲヲ希望スト、ウ
 キリヤムス氏天顏ヲ拜シ、其勅旨ノ厚キヲ奉答シ
 テ退ク、○十六日電報信書中、他人ノ披閱ヲ憚リ、親
 展内啓等ノ文字ヲ旁記ス、其記載ノ体裁ニ因リテ
 ハ、音信本文ノ混淆シ、緊要ノ事件モ、却テ他聞ヲ縱
 シ、大ニ弊害ヲ生ス、自今親展ノ音信ハ、本文ト其語
 ヲ分別シテ記載シ、送信スベキ旨ヲ、一般ニ廣告ス、

○十八日、諸官員出張在勤ノ者ハ、宿代賜方ノ規則、
 來九年一月ヨリ廢止トナス○十九日、國內一般官
 私所有ノ西洋形蒸氣帆前船舶表ノ明細ニ書載シ、
 毎年十月之ヲ海軍省ヘ出サシム○二十日、各管内
 一般地租改正法施行ノ上、地所ニ賦課スル區費ハ、
 市街地モ地租三分ノ一ヨリ、超過スベカヲズト布
 告ス○二十二日、本年三月ヨリ開局ノ、北海道長万
 部電信局ヲ鎖閉シ、函館ヨリ小樽ニ至ル通信ノミ
 ヲ置ク○二十四日、北海道天鹽國留萌郡ニ鬼鹿驛
 ヲ置キ、其里程ヲ定ム○府縣東京府ヲ除ク官中ニ警部ヲ
 置キ、其等ヲ六級ニ分ツ、其職制ハ知事令ノ指令ヲ

受、巡查ヲ管シ、各地ニ派出シ、警察事務ヲ管ス○府
 縣選卒ヲ巡查ト改稱シ、等級月俸ヲ定ム○二十七
 日、左大臣島津久光、參議板垣退助、辭表ヲ上ル、即日
 本官ヲ免ス○大坂出張ノ紙幣寮ヲ廢シ、従前同所
 ニ送納ノ官省札等ハ、直チニ東京本寮ヘ之ヲ納メ
 シム○人民一般、時機不得巳ノ際ニ當リ、身ノ危難
 ヲ顧ミズ、死傷ノ舉動アル者ハ、巡查選卒死傷者吊
 祭扶助料規則ニ照準シ、之ニ賞與セシム○内務省
 中准刻局ヲ廢シ、事務ハ圖書寮ニ於テ管理セシメ、
 先キニ准刻局ニ合併セシ、公文往復掛ヲ別ニ設ク、
 ○寺院無檀無住ノ各ハ、各管廳ニ於テ之ヲ調査シ、

其他ハ寺檀出願ノ上、均シク教部省ヲシテ、處分セシム。○發行ノ圖書ト雖、淫褻俗ヲ亂リ、及ビ新聞條例ニ係ル者ハ、明年八月ヲ限り、一切發賣ヲ停止ス。○二十九日、公使領事館定額金并ニ外國人ヨリ購買ノ物價海外派出ノ旅費等金額ハ一切大藏省國債寮ニ廻送シ、其渡方ヲ處分ス。○大藏省出納寮中ニ納金局ヲ設ク、上納金或ハ返納ノ現金ヲシテ、同局ニ預ケ、其預リ証書ヲ以テ換納ス。○三十一日、府下車夫等、少年婦女、或ハ外國人へ、強テ乘車ヲ勸ル者不少、其体裁ヲ失フヲ以テ、自今巡査聞見次第、速カニ取押ヘ、之ヲ處分セシム。○先是商法ノ衰弊

ヲ生ジ、金融閉塞、物産増殖セザルヨリ、森有禮之ヲ憂ヒ、府内ニ商法講習所設立ノ舉アリ、乃チ東京會議所ヨリ、資金ヲ寄附シ、是月建築始テ成ル。因テ米國商法學博士ホウキツニ氏ヲ教師トナシ、歐米各國ニ於テ、商法上ニ講スル學科ヲ、一般人民ニ講習セシメ、益通商ノ真理ヲ諭シ、以テ富國ノ基礎トナス。

十一月三日、天長節ノ祝賀タルヲ以テ、日比谷練兵所ニ天皇臨行、諸兵飾隊式ヲ覽ス。○是月ヨリ、上野山内ニ於テ、巡查實彈ノ射的ヲ始ム。○五日、外國人游歩規程内ニ於テ、外國人ヲ宿泊スル旅店ハ、宿主

ヨリ其戸長ニ達スベシ、若シ病氣療養トシテ止宿セシメル時ハ、之ヲ管轄廳へ上請セシム。○徵兵令ヲ改訂シ、之ヲ一般ニ布告ス。○藥品ノ質惡ヲ用ユルヲ禁ズ、殊ニヨードカリ、キニーネノ二品ハ、緊要有力ノ藥トナス、自今三府司藥場ニテ、藥品ヲ調査セシム。○十日驛邊頭前島密ヲシテ、支那上海へ出張セシム、尋テ外務少輔森有礼ヲ、特命全權公使ニ任ジ、支那北京へ赴カシム。○此日、英國太子、印度ボンベールニ上陸シ、初テ政廳ニ於テ、耶穌人ヲ引見ス。○丁秣國ノ皇帝夫妻、英國ニ遊バン為メ、護途セリ、歸國ノ日、英太子ノ妃、即チ丁秣國ノ皇太子ノ妃并ニ其諸皇孫英太子ノ

子ヲ拉へ歸リ、耶穌ノ祭日ヲ共ニセントス。○魯西亞國ト、千島、樺太、兩島交換條約ヲ締結ス。○先是布告スル酒造、絞油、商船賣買、鑑札規則追加ノ條ヲ廢シ、更ニ商船生絲、牛馬等鑑札ノ規則ヲ定ム。○文部省書籍館ノ規則ヲ改正シ、尋テ博物館所屬淺草文庫ヲ設ケ、和漢西洋ノ典籍ヲ蒐集シ、公私ノ借覽ヲ許ス。○十二日、各地人民ヨリ、開拓使ニ對スル訴訟ハ、自今東京上等裁判所ニ於テ、之ヲ受理ス。○海軍武官、及ビ文官ノ服制ヲ定ム、尋テ陸軍後備軍官員服務ノ概則ヲ制ス。○警部巡查制服、及ビ旅費等ヲ更正ス。○本年六月布達セル、皇國地誌編輯例則ニ、

追補ノ條ヲ加ヘ、之ヲ頒布ス。○開拓使管下北海道渡島國龜田郡ト、第部郡トノ郡境ヲ更正シ、龜田郡宿野邊村ヲ第部郡ニ編屬ス。○十八日、磐前、福島兩縣管下ノ國郡境界ヲ定メ、管轄ヲ區別ス。○十九日、外國政府ヨリ賞牌ヲ受ル者ハ、其勲記ノ寫書ヲ添、其事由ヲ上告シ、以テ佩用スルヲ許ス。○二十二日、東京裁判所ヘ、檢事局ヲ設ク。○水澤縣廳ヲ陸中國磐井郡ノ一ノ關ニ移シ、磐井縣ト改稱ス。○阿片藥製造ノ者ハ、其管内ニ於テ、族籍人名ヲ記シ、遺漏ナク上申セシム。○二十四日、岐阜縣管下、美濃國ノ郡村ヲ合併シ、之ヲ多藝郡ヘ編屬ス。○二十五日、元老

院中ニ幹事ヲ置ク。○内務省中驛遞寮ヲ以テ、一等トシ、警保寮ヲ二等トナス、工部省中工學寮ヲ二等ニ改メ、別ニ管繕寮ヲ設ク。○各省大少丞權官並ニ筆生省掌ヲ置ク。○諸建白書、立法ニ關スル者ハ、元老院ヘ出シ、其他ハ主任ノ廳ヘ向テ出スマシ、訴訟ニ涉ル事件ハ、成規ノ順序ヲ示シ、之ヲ本人ニ下ケ戻スベキ旨ヲ頒布ス。○大藏省中ノ職制章程ヲ改正シ、租稅、造幣ヲ、一等寮トシ、紙幣、出納、統計、檢査、國債、記錄ヲ、二等寮トシ、全國理財ノ事務ヲ管掌ス。○二十七日、電信局建設ナキ地ニテ、郵便ヲ以テ電報ヲ欲スル者ハ、郵便切手ヲ買受ケ、之ヲ音信料ト

ナシ、音信文ト合封シ、電信局ヘ向テ出ス規則ヲ定メ、來九年一月ヨリ之ヲ施行ス。○寺社逸減祿ハ、本年分ヨリ米額ノ稱呼ヲ廢シ、每地方貢納定價三年間ヲ平準シ、金祿ニ換テ之ヲ支給ス。○華族ヲ除ク外、有位ノ判任官免職ノ時ハ、速ニ正院ヘ上申スベキ旨ヲ布告ス。○二十八日、樺太島ト交換ノチクリ諸島ヲ以テ、開拓使ノ管轄トナス。○二十九日、東京女子師範學校、建築既ニ成ヲ以テ、開業式ヲ行フ。此日皇后宮行啓アリ、教員督學各祝詞ヲ上リ、其盛舉ヲ奉賀ス。○三十日、縣治條例ヲ廢シ、府縣職務并ニ事務章程ヲ更定ス。○先是、內務大丞松田道之、朝命

ヲ奉ジ、琉球國ニ赴キ、齎ス所ノ命令書ヲ出シ、恭ク琉球藩王ニ授ケ、乃チ朝旨ノ條理アル所謂ヲ懇諭スルニ、藩吏概シテ旧套ノ頑固ヲ墨守シ、更ニ承服ニ至ラズ、道之辨論ノ末、日本政府ヨリ陸軍分遣隊ヲ置キ、且琉球ヨリ刑法取調ノ官吏、學事修業ノ生徒、事情通知ノ學生等ヲ、上京セシムルヲ漸ク肯シ、朝旨遵奉ノ書ヲ以テ進呈ス、去年征蕃軍役ニ付キ、天恩ヲ隆渥ナルヲ拜謝セントシ、藩王躬ヲ帝闕ニ咫尺スベキ處、病故アルニ依リ、王子ヲシテ上京代謝スベキ旨ヲ、上陳スト、米國○ニユールグノ人口、新夕ニ算用スルニ百

六万四千二百七十二人、五年前ニ比スレバ、九万千
 百六十六人ヲ増加スト、
 西班牙○カリスト黨ノ勢ヒ益衰ヘ、不日ニシテ
 内亂モ治ラントス、アルフオツソ第十二世ハ、數賢
 人ニ命ジテ、新タニ政体ヲ為ラシメ、先ヅ政府ノ体
 ヲ君民共治ト定メ、宗旨等ノ自由ヲ許ス、
 十二月二日、宮内省中式部寮ヲ更ニ正院ニ属シ、自
 今叙任ノ次第ヲ同寮ヨリ傳宣ス、○府下六所ニ設
 置ク、警視分廳ヲ悉ク廢シ、從來分廳管轄ノ區域ニ
 從ヒ、管下ヲ六方面ニ分チ、警視第何方面第何署ト
 改稱ス、○戶籍寮ニ於テ、明治六年一月一日調ノ全

國戶籍表ヲ編製ス、○自今公文中總テ計算上一倍
 ノ稱呼ヲ止メ、従前ノ諸規則等ニ一倍ト記載スル
 者ハ之ヲ二倍ト改正ス、○四日、本年三月中布達セ
 ル行政警察規則ヲ刪定シ、加フルニ警部勸務ノ條
 則ヲ以テス、○田漕貨物取扱ノ條則ヲ改正シ、之ヲ
 頒布ス、○九日、陸軍中將兼參議黒田清隆ヲシテ、特
 命全權辦理大臣トナシ、朝鮮國ニ發遣セシムト布
 告ス、○婚姻養子養女ヲ取結ビ、或ハ離縁等ニ至ル
 際、雙方ヨリ速カニ戶籍ニ登記スベシ、換籍セザル
 モノハ、其一般ニ布達ス、○十日、小田縣ヲ廢シ、岡山
 縣ニ合併ス、○海陸軍刑律條科ヲ改正ス、○本年五

月中、巡回裁判ノ事ヲ布告ノ處、自今府縣裁判所ニ於テ、罪案證憑擬律案ヲ具シ、上等裁判所へ送り同所ニ於テ之ヲ審案檢査シ、罪跡明白ニシテ、巡回再審ヲ要セザル者ハ、直チニ大審院ノ批可ヲ請ヒ、原府縣裁判所へ還付シ、決行セシム。○十二日、來九年一月十八日御歌會始ノ詠題ヲ宮内省ヨリ廣告シ、人民ヲシテ詠進セシム。○民事許狀日安、亂ノ際不受理又ハ願下ケ等ノ方法ヲ定メ、之ヲ布達ス。○十三日、鹿兒島山口高知三縣ニ、裁判所ヲ置ク。○十七日、播磨國明石海峽東北ニ、一箇ノ浮標ヲ設ク。○元老院へ建白ノ書類ハ、立法ニ關スル事項ニ非ザレバ、

受付セザルヲ以テス、誤テ他事ヲ言フ者ハ、之ヲ廢棄スベク、固ヨリ國ノ為メニ、各意見ヲ上陳スル者ナレバ、其取捨ハ、別ニ本人ニ告ゲズト、同院ノ門側ニ揭示ス。○罪囚逃亡ノ節、實際ヲ檢察シ、脫監越獄反獄ノ區別ヲ以テ、之ヲ律文ニ照準シ、其事由ヲ瞭然ト記載スベキ旨ヲ布達ス。○僧侶廢業ノ節ハ、自今其旨ヲ出願ニ及バズ、各地管轄廳ニ於テ、之ヲ聽納處分ス。○來明治九年新祭式ヲ、式部寮ヨリ頒布ス。○十九日、海面ヲ區畫シ、捕魚採藻ヲ業トスル者、自今出願スベシ、調査ノ上、之ヲ許可セシム。○二十日、伊勢神宮、及ビ官國幣社諸陵墓等、祭典ノ節、奉仕

并ニ拜禮ノ章殿上ノ式ハ祭服坐禮庭上ノ式ハ大
禮服ヲ着シ立禮ト定メ明年一月ヨリ此式ヲ遵行
ス○東京裁判所支廳へ、勸解ヲ乞フ者、訴狀ヲ作ル
ニ及バズ、直チニ該廳ニ出願、其事由ヲ陳述スベキ
旨ヲ、一般ニ布告ス、

内明八史略卷下終

明治九年三月刻成

第六大區一小區

定價三拾二錢

深川富岡門前町七十番地

編輯
出版人

近藤圭造

大阪心齋橋筋南久宝寺町

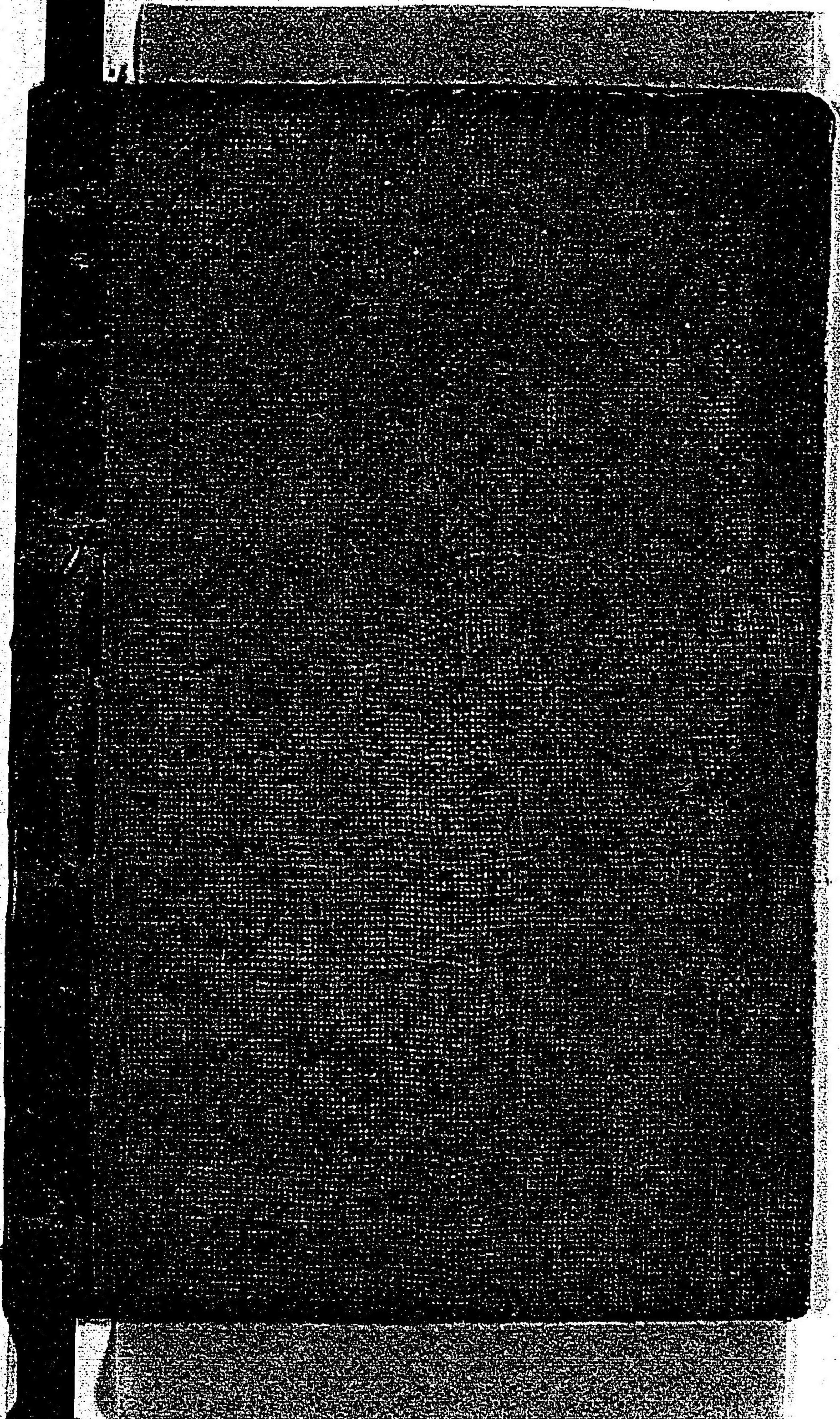
賣弘

前川善兵衛

東京吳服町

同

坂上半七



特32
560

002191-002-1

特32-560

内外明八史略

近藤 圭造/編

下

M9

ACB-5503

